

アナログとデジタルを融合 一貫生産を強みに

能代工業団地に本社を構えるレインボーワールド株式会社。分業制が主流である業界の中で、捺染から裁断・縫製まで一貫した生産体制を確立している同社の技術についてお話を伺った。



工場長

佐藤 貴宏

レインボーワールド 株式会社

〒016-0122

能代市扇田字扇淵3-6

TEL: 0185-58-2033

FAX: 0185-58-2660

<https://rainbow-world.jp/>



HP



横浜生まれの伝統捺染技術 表現力の豊かさが強み

平成元年に豊かな水と人材を求めて横浜から移転したレインボーワールド株式会社。布への染色、プリントの業界は主に分業制だが、同社では製版からプリント、裁断、縫製、検品、発送まで一貫した生産体制を持つ。工場長の佐藤貴宏さんは、その成り立ちについて教えてくれた。

「当社ではハンドプリント、オートプリント、そしてデジタルプリントという3つの印刷技法を用いて生産を行っています。ハンドプリントでは、製版という作業から始まり、人間の手によって版にインクをのせてなでる、いわゆる捺染と呼ばれる昔の技術が用いられ、色数が無限大でさまざまなものを表現できるというのが強み。創業地である港町・横浜は輸出するためのスカーフなどの生産が盛んで、捺染が地場産業のひとつ。横浜で培ったその技術を今も大切に、生産に取り組んでいます」。

顧客第一でコストカットを実現 一貫生産体制が信頼と安心を生む

能代市への移転を機に、蒸し工程や水洗工程も自社に設備を整えて一貫生産が可能となった。それにより、コストの圧縮が実現できるだけでなく、万が一事故が起きたときにも原因の追求ができることも、顧客からの信頼と安心感につながった。

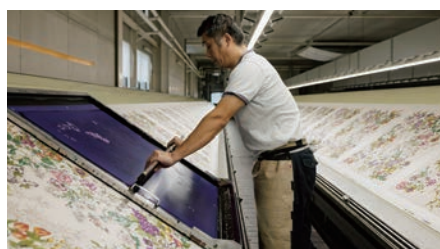
製版が必要なアナログ印刷に対し、デジタル印刷は版が不要で、製版コストや納期の圧縮も可能だ。両面プリントが可能な最新型のインクジェットプリンターも導入した。

職人の技術によって印刷に深みを出せるアナログ技術の良さと、コストを抑え、短納期を実現でき、新たな表現を可能にするデジタル技術の良さ。一貫生産体制に加わり、アナログとデジタルの融合により、唯一無二の存在となった。

「能代市では知ってくださる方が少しずつ増え、中高生が見学に来てくれることも増えました。もっと認知度を上げていきたいですね」と佐藤工場長。世界で活躍するモノづくりを支える、素晴らしい企業がここにある。



一度に14色分のプリントができるオートスクリーン。



通常の捺染台は25mほどだが、こちらは33m。効率的な作業が可能だ。



台糊に染料と助剤を混ぜた後、蒸すことでしっかりと生地に着色する。